



福山赤坂ロータリークラブ週報

第446回例会

2006年4月11日(火)

超私の奉仕

2005~2006年度 国際ロータリー会長 カール・ヴィルヘルム・ステンハマー

●会長 菅 雪雄 ●副会長 門田一治

●幹事 前田真治 ●会計 藤原美則

●SAA 今井尚正 ●副幹事 佐藤俊之

創立 1996.10.8 承認 1996.10.23

例会場 福山市赤坂町赤坂 1276

事務所 福山市赤坂町赤坂 1276

TEL (084)920-4141

FAX (084)920-4140

ホームページ <http://www.fa-rc.jp>

E-mail fa-rc@aurora.ocn.ne.jp

例会日 毎週火曜日 12:30~13:30

◆会長報告

4月は雑誌月間になっておりますので今日は「ロータリーの友」月刊誌での記事の話をしてみたいと思います。ロータリークラブは得てして外部に向けての広報、PRが弱いと言われております。他の奉仕団体と比べてなぜ弱いのか？関心と興味を呼ぶ事業の記事内容がいまどきのトップ記事としてのレベルにつながらないからだと思います。しかし「ロータリーの友」の内容は正にロータリアンにとって宝の山といっても過言ではないと思います。素晴らしい系統的システム化された企画力で実に有効かつ知識、学習につながるものを持っていると思います。国内、国際の両面を持った中身は会員にとっては知識と情報の泉だと感じております。では対外的ニュース力とは、何をさすのか？ある日刊紙での記者の言った記事が心に残っております。犬が人間をかんでも記事にならないが、人間が犬をかんだ事態の記事はニュースになります。分かりやすく言えば一民間人が飲酒運転で事故を起こしてもあまり記事にはなりません、警察または公務に携わる高官が起こしたら記者は飛びついて記事にしたいくなるのと同じだと思います。つまり広報や情報は真実性と話題性、スピードなどが読者の関心と興味をひき付けるものであって、そういうものが介在しない限り駄目だと言われております。ロータリークラブの事業と活動がただ単なる慈善事業であってはならない点もここでも考えさせられます。ロータリーの友にも乗っておりましたがいまやロータリークラブは常に新しい意欲と刺激を求めてマンネリ化にいたることなく新局面に目標を求め、広報雑誌週報の三位一体の共同意識の連携のもと、クラブ自己啓発と併せ、クラブ会員としての有機的相互活動の実を見つけるべきではないかと思っております。雑誌月間にあたって少しでも参考になればと思います。会長の時間を終わります。

◆幹事報告

「ロータリーの友」「ガバナー月信」4月号

岩森ガバナーエレクト事務所より 2006-07年度地区協議会の案内

5月13日12:00~ ホテルグランヴィア広島

米山梅吉記念会館報

(例会変更)

尾道東RC 5月2日(火) 休会

5月9日(火) 尾道商業会議所での移動例会

5月30日(火) 尾道北高等学校での移動例会

◆出席報告

○会員数 32名 ○出席率 72.41%

欠席者 8名 佐藤(直)さん 角田(英)さん 杉原さん 津田さん 谷口さん

梅西さん 下宮さん 武田さん

◆スマイル BOX

会員結婚記念祝	谷口宏樹さん	H15年4月4日
	山岡一夫さん	S48年4月5日
	武田正敏さん	S42年4月7日

申告スマイル

菅 雪雄会長……4月4日の家族同伴花見例会、雨の中ご苦勞様でした。今日のプログラムは次年度会長 門田さんの PET 報告よろしくお願ひ致します。

前田真治幹事……先週の花見例会には多数の出席をいただき、又スマイルもたくさんしていただき誠にありがとうございました。親睦委員会、SAA の皆様大変ご苦勞様でした。

真田惣行さん……新車を購入しました。BM の一部改良型です。

佐藤和美さん……先週の花見家族例会で因島ロッジをご利用ありがとうございました。

神原一省さん……先週は因島でお花見例会ご苦勞様でした。親睦委員会の皆さんのおかげで楽しく過ごさせていただきました。今井さん、佐藤さんのスマイル集金能力には敬服します。ライブドア並みです。ありがとうございました。

佐藤俊之さん……先日の花見例会、お疲れ様でした。又多額のスマイル穂運等にありがとうございました。今後ともよろしくお願ひ致します。

◆プログラム：会員卓話：「PET 報告」：門田一治会長エレクト

会長エレクト研修セミナー（PETS）はガバナーエレクトの指示と監督の下に地区研修リーダーによって計画され実施される、情報提供のプログラムである。その目的はクラブ会長の次のような点についての能力、知識及びやる気を育成することである。

- クラブの会員基盤を維持し、そしてもしくは増大させる。
- 地域社会及び他国の地区社会のニーズに対応するようなプロジェクトを実行し成功させる。
- 金銭的な寄付及びプログラムに参加することでロータリー財団を支援する。
- クラブレベルを超えてロータリーに奉仕する能力のある指導者を育成する。

2006～07年度の国際ロータリー会長 ウィリアム・ビル・ボイド氏のメッセージテーマは「率先しよう」Lend The Way です。ロータリアンが世界を変える力を持っているという会長の新年を表している。親睦と奉仕を通じて明るい未来を間たらすために 120 万人のロータリアンが力を合わせて率先して行いましょう。水保全 識字率向上 保健及び飢餓 ロータリー家族 を強調事項としました。

岩森ガバナーエレクト

「ロータリーの原点回帰」 次年度では「ロータリーの心を見つめなおそう」ロータリーの原点へ戻ること。慣用と誠実さを持つべきであると代々 R I 会長も語り続けておられます。専門職能を持ったロータリアンはプロ意識を持って行動しよう。

「クラブの棚卸し」 クラブのあり方を再検討していただき、見つめ直しより機能的なものに。これがクラブリーダーシッププランの導入です。

次回例会案内 5月2日（火） 休会
5月9日（火） 会員卓話 10周年に向けて